

# SCSK株式会社



## クラウドベースのセキュアゲートウェイを採用し 社外で業務する社員とデバイスのセキュリティを強化



### 製品 & サービス

- ・ Cisco Umbrella

### 課題

- ・ 働き方とネットワークが多様化する中、社内外の場所を問わず一定のガバナンスとセキュリティレベルを保つ必要性が高まった
- ・ お客様先に派遣される社員を含め、持ち出し PC のセキュリティ強化を検討していた

### ソリューション

- ・ DNSレイヤセキュリティによりプロトコルやポートによらず、トラフィックの宛先を確認し、悪意あるサイトへのアクセスをブロック。網羅性が高く、マルウェアの感染を未然に防ぐことができる
- ・ クラウドベースで提供されるため追加機材が不要、導入から管理、運用面で手間がかからない
- ・ 社内展開と運用も予想以上にスムーズ

### 結果～今後

- ・ マルウェアやフィッシングなどの検知とブロック済み結果がダッシュボードでリアルタイムに把握できる
- ・ スマートデバイスへの展開、各拠点のSD-WAN化やCASBなどインターネットアクセス、クラウド利活用の安全性強化に取り組む
- ・ 自社運用の知見を活かしお客様企業へCisco Umbrella 導入支援サービスを開始

SCSK 株式会社（以下、SCSK）は「夢ある未来を、共に創る」を経営理念に掲げる、2019年に創立50周年を迎えるグローバルITサービスカンパニーです。今回、社外で業務する社員向けの持ち出し用PCの安全性強化を目的に、クラウドベースのセキュアインターネットゲートウェイ Cisco Umbrella を導入。社外でも社内と同様、安全に業務が行える仕組みを構築しました。

**事業特性上、新たなセキュリティ対策へチャレンジし、より良いものをいち早く取り入れ、使いこなして成果を把握することが重要です。Cisco Umbrella はシンプルで、チャレンジしやすい多層防御ソリューションです。**

—— SCSK 株式会社 情報システムグループ コーポレートシステム部 副部長 加曾利 浩司 氏

SCSKは幅広いサービスをワンストップで提供するグローバルITサービスカンパニーです。2019年には創立50周年を迎え、これまでの経験と知見、強固な顧客基盤を強みとして時代の変化を捉えたサービス提供型ビジネスへのシフトなど、戦略的事業展開を推進中です。また、テレワークの実施、長時間労働の抑制などの取り組みを継続的に実施し、IT業界における働き方改革のリーディングカンパニーとしても知られています。

### 課題

SCSK 株式会社 情報システムグループ コーポレートシステム部 副部長の加曾利浩司氏は今回の導入意図について、次のように話します。

「社内のネットワーク、サーバなどのITインフラ、コラボレーション基盤の整備および運用を預かる立場として、社内と社外での業務上のセキュリティ格差が懸念としてありました。今回のCisco Umbrellaの導入は、働き方改革を推進する業界のトップランナーとしての環境整備の一環でもあり、またクラウドサービスへの事業展開としてのチャレンジでもあります。」

情報システムグループ コーポレートシステム部 基盤システム課の小貫正弘氏は、従来の課題について次のように話します。

「SCSKの社内ネットワークは、インターネットアクセス時にプロキシやファイアウォール、Webフィルタリングといった複数のセキュリティソリューションを活用し、安全性を高めています。



SCSK 株式会社  
情報システムグループ コーポレートシステム部  
副部長  
加曾利 浩司 様



SCSK 株式会社  
情報システムグループ コーポレートシステム部  
基盤システム課  
板橋 信昭 様



SCSK 株式会社  
情報システムグループ コーポレートシステム部  
基盤システム課  
小貫 正弘 様

しかし、事業展開上で必要な部門調達のネットワークが存在したり、社外やお客様先で業務を行うテレワーク、モバイルワークなど働き方も多様化する中で、社内、社外を問わず一定のガバナンスとセキュリティレベルを保つ必要性が高まっていました。」

もちろん、社外に持ち出すパソコンにも一定レベルのセキュリティは施されています。情報システムグループ コーポレートシステム部 基盤システム課の板橋信昭氏は次のように話します。

「SCSK では業務上、お客様先に訪問してのデモンストレーションや提案を行う営業や、お客様企業内に常駐して保守業務を行う SE など、社外で業務するユーザとデバイスがかなりの数に上ります。その際は指定の持ち出しパソコンを使用し、そのデバイスにはアンチウイルス、リモートアクセス、資産管理システム、EDR (Endpoint Detection and Response) を活用して安全を担保しています。」

しかし、不安は解消されたわけではない、と加曾利氏は話します。

「社外ユーザをマルウェアやランサムウェアなどから守る多層防御という観点では十分とは言えません。当初はオンプレミス型の Web フィルタリングをクラウドプロキシへ移行しての活用を検討しました。しかし、それでは社内と社外で二重の運用負荷がかかる上に、ブラウザアクセスしかカバーできません。ちょうどそのタイミングで知ったのが Cisco Umbrella でした。」

Cisco Umbrella は、悪意ある Web サイトへの接続を DNS ※1 レイヤで確実にブロックする、クラウドベースのセキュア インターネット ゲートウェイ (SIG) です。

小貫氏は検討時のプロセスについて、次のように話します。

「SCSK グループである SDC 株式会社に依頼して、シスコの東京オフィスで Cisco Umbrella のデモを体験しました。その後、POC ※2 環境を提供いただき、まずは社内の DNS クエリを Umbrella に向けて、どのくらい検知するのか確認しました。社内ネットワークですので、そこまで数は多くありませんでしたが、確実に異常を検知し、悪意ある Web へのアクセスを止めることがわかり、安心感が得られたことで正式な採用に向け、動き出しました。」

Cisco Umbrella の選定理由について加曾利氏は、次のように話します。

「Cisco Umbrella の DNS レイヤで守るという発想は新しく、ユーザがどこにいてもあらゆるデバイスのポート、プロトコルでトラフィックを検閲され、防御される網羅性の高さを評価しました。また、クラウドベースで提供されるため追加機材が不要で、導入から管理、運用面でも手間がかからないのも魅力でした。」

※1 DNS (Domain Name System) : URL と IP アドレスを変換するインターネットの名前解決の仕組み

※2 POC (Proof of Concept) : 「概念実証」。新しい概念や理論、アイデアの実証を目的とした検証やデモンストレーションを意味する

## どこにいてもあらゆるデバイスのポート、 プロトコルで防御される網羅性の高さ と導入から管理、運用面でも 手間がかからない点を評価しました

### ソリューション

加曾利氏は経営層への上申もスムーズに採択された、と話します。

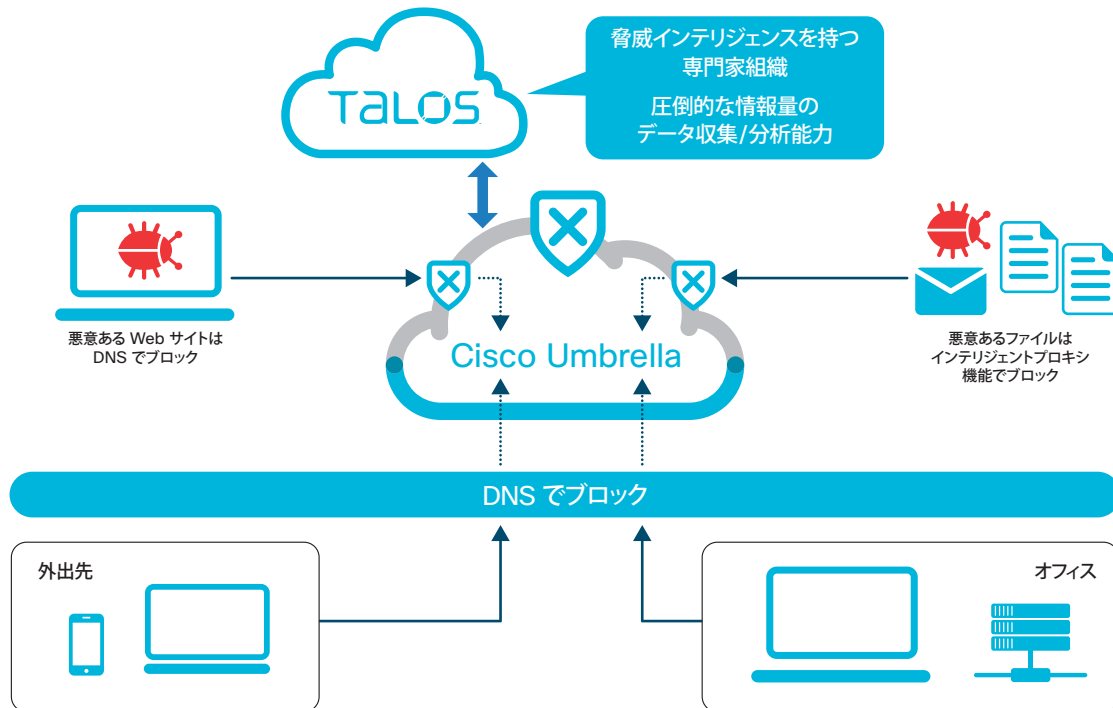
「従来から社外ユーザ保護への懸念は理解いただいていたし、Cisco Umbrella は把握だけでなく防御まで行える新たな強化策と説明しました。加えて、セキュリティ対策のクラウド型への移行という点が将来の事業展開との親和性が高い、との評価もありました。」

Cisco Umbrella は目的によりさまざまな導入方式がありますが、SCSK では各クライアントパソコンに Umbrella Roaming Client (以下、ローミングクライアント) をインストールする方式を選択しました。その理由について、板橋氏は次のように話します。

「Cisco Umbrella は DNS 設定を変更するだけでも利用できますが、当社では社外で業務する際に使用する持ち出しパソコン端末ごとの、誰が、いつ検知されたかを把握したかったのです。」

## 導入ソリューション

# Cisco Umbrella



Cisco Umbrella は、DNS の設定を変更するだけで簡単に導入でき、LAN を利用するすべての社内ユーザ、リモートユーザを保護できるクラウドセキュリティ サービスです。世界最大級の解析力と情報提供体制を誇るシスコのセキュリティ インテリジェンス&リサーチ グループ (Cisco Talos) と連携し、常に最新のセキュリティを提供。お客様側でソフトウェアやデータを更新する手間がかかりません。



### 業界初のDNSの技術によりインターネット上の脅威を未然に防御

- すべてのプロトコルとポートが保護対象悪意あるサイトをアクセス前にブロック
- 目的に応じた柔軟にカスタマイズ可能なアクセスポリシーを設定
- マルウェア (ランサムウェア) 対策にも有効



### 簡単・迅速な導入

- クラウドベースのソリューションのため、追加のハードウェアなどは不要



### 働き方改革に最適

- 社内、社外、VPN 接続のON/OFFを問わず、あらゆる場所、ユーザ、デバイスを保護



### 業界最高水準の検知率、最新の脅威に対応

- 世界最大級の解析力と情報提供体制を誇るシスコのセキュリティ インテリジェンス&リサーチ グループ「Cisco Talos」と連携し、常に最新のセキュリティを提供



### インターネットの利用状況を可視化

- 脅威に関するさまざまな情報をグラフィカルに可視化
- 意図せず利用しているクラウドアプリケーションなどの「シャドー IT」も見える化

ローミングクライアントをインストールする方式であれば、パソコンのホストネームでそれらが把握できます。これは可視化だけでなく、証拠管理という観点でも重視しました。」

持ち出しパソコンは台数も多いため、社内展開には不安もあったとのことですが、実際はスムーズであったと小貫氏は語ります。

「情報システムグループから Cisco Umbrella 導入の目的と基準などをしっかり社内へ告知して、意義を説明した上で利用を促しました。予想以上に、社内への導入はスムーズに行われました。社員のリテラシーやセキュリティに対する危機意識が高かったことも背景にあったと思います。」

板橋氏は初期設定について次のように話します。

「初期は社内のセキュリティ専門家チームと連携し、基本的にはシスコがおすすめするデフォルト設定で利用開始しました。全社展開から 2 ヶ月ほどは業務上必要なサイトがブロックされた、という問い合わせがあり、20 サイトほど、ホワイトリストに追加する作業を行いました。その際も社内のセキュリティ専門部隊と連携してシスコのスレッドインテリジェンス チームに問い合わせると数日に対応してくれますし、日本語での対応も可能ですのでストレスなく対応できました。」

## SCSK株式会社



**所在地** 本社 東京都江東区豊洲 3-2-20  
(豊洲フロント)

**設立** 1969 (昭和44) 年 10 月 25 日

**資本金** 21,152 百万円

**業種** 情報システムサービス業

**従業員数** 12,365 名  
(2019年3月31日現在 連結)

**URL** <http://www.scsk.jp/>

## 結果～今後

2019 年 1 月のサービスイン以降、およそ半年間での検知数は数百件に上るといふ。小貫氏は現状をこう説明します。

「マルウェアやフィッシング検知とブロック済み、という結果が Cisco Umbrella のダッシュボードでリアルタイムに把握できます。当社は社員のリテラシーも高いため数は多くありませんが、それでも確実にブロックされていることがわかり安心です。DNS クエリ数の月ごとの数値傾向を把握していますが、特に急増することもなく、今のところ安定しているの見守っている状況です。」

加曾利氏は今回の成果への評価と、今後の展開を次のように話します。

「Cisco Umbrella の適用範囲は現状、持ち出しパソコンのみですが、今後はスマートデバイスへの展開および、各拠点の SD-WAN 化や CASB ※3 も視野に入れたインターネットアクセス、クラウド利活用の安全性強化に引き続き、注力していきます。SCSK の事業特性上、新たなセキュリティ対策へのチャレンジ、より良いものをいち早く取り入れ、使いこなして成果を把握することが重要です。Cisco Umbrella はシンプルで、チャレンジしやすいソリューションですが、それでも設定や既存セキュリティ環境との兼ね合いなど、経験に基づく判断が必要になる局面もありました。」

SCSK では自社運用の知見を活かし、社内のセキュリティへの知見やリソースに不安を抱えるお客様企業へ Cisco Umbrella 活用支援サービスを開始します。SCSK はグローバル IT サービスカンパニーとして、提供するサービスを強化する上でも、グローバルでネットワーク機器にとどまらずセキュリティも含めたトータルソリューション サービス提供を行うシスコとの協業を継続していきます。

※3 CASB (Cloud Access Security Broker : キャスビー) : ユーザと複数のクラウド プロバイダーの間に単一のコントロール ポイントを設け、クラウド利用での可視化や制御を行うことで一貫性のあるポリシーを適用できるようにするソリューション

## その他の詳細情報

Cisco Umbrella の詳細は、<https://www.cisco.com/go/umbrella> を参照してください。

©2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は 2019 年 7 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー  
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先